

岩崎純一歌集		『新純星余情和歌集』>2001年の部			
歌集名読み		しんじゆんせいよせいわかしふ			
作者		岩崎純一			
通釈・語釈		園井長光、岩崎純一(自釈)			
作者サイト		<a href="http://iwasakijunichi.net/">http://iwasakijunichi.net/</a>			
和歌ページトップ		<a href="http://iwasakijunichi.net/waka/">http://iwasakijunichi.net/waka/</a>			
詠進年月日	題	2001年の歌会・歌合(全て自歌会・自歌合)	通釈	語釈	他歌人欄
主催: 岩崎純一	歌数:2首 歌人数:1名 自歌数:2首	『上京和歌』(じやうきやうわか)			評
2001		上京時の歌である。 自撰			派生歌など
2001/3/30	上京	明るさは西日ばかりを昔にて東のけふに見えぬしのめ	西日の沈む方角ばかりが昔の明るさであるという心持ちで、東の方にやって来た今日、東京には今も見えない東雲の空である。	◇掛詞 「今日×京」 ◇対句 「西日、昔//東の京、東雲」	
2001/5/1	上京	白雪のなほふるさとをしのぶかな散り果てしのちの橘の月	白雪が今も降っている故郷を思い出すことだ。桜が散ったのち、過去を思い出させると古歌にある橘の咲く五月の頃。	◇掛詞 「降る里×故郷」 ◇本歌取 「かきくらしなほふるさとの雪のうちにあとこそ見えね春は来にけり」(宮内卿)	